

ルーテル学院報 Luther No.9

パイプオルガンの音色響く

～ルーテルと共に新たな歴史の幕開け～



お披露目コンサート (10月24日)
オルガニスト松波久美子さんによる演奏



創立90周年記念事業のひとつである新しいパイプオルガンが、中高礼拝堂に設置されました。

このパイプオルガンは、オランダ生まれでイスに工房を持つ建造家ベルンハルト・エツケス氏が制作した国内には2台しかない貴重なパイプオルガンで、今回の創立90周年記念事業にあわせ、日本福音ルーテル宮崎教会から譲り受けたものです。

オークの木の風合いを生かした外観で、その両側には可愛らしい一對のラッパを持つ木彫りの天使が装飾されています。

見た目は小ぶりながらも重厚で荘厳な音色を備えつつ、礼拝では、生徒の心にそっと寄り添う暖かくて繊細な音色を響かせてくれます。

また、これからの入学式、卒業式などの式典の思い出とともにオルガンの響きは多くの生徒たちの心に深く刻まれ、学院の教育に大きな役割を果たしてくれるものと期待しています。

Contents

学院 News	2～4
がんばる中学生	5
ルーテルスポットライト / 聖書の言葉	6
ルーテル学院ヒストリー	7
Luther Information/ 募金報告	8

学院創立89周年記念式典

10月3日九州ルーテル学院創立記念式典が中高礼拝堂で開催され、全教職員と関係者をあわせて160名が参加しました。

開会礼拝に始まり、坂根信義理事長のメッセージ、永年勤続者表彰、来賓代表として同窓会、のいばら会役員の横山弘毅氏（高校56回卒）の挨拶、学院倫理綱領の朗読が行われ、「学院はひとつ」を実感させる式典でした。

式典後、こども園、中学・高校、大学および学院総務部の全教職員が集まって、学院研修会が開催されました。



永年勤続者を代表して西山隆志先生（中高）のスピーチ

今年のテーマは「建学の精神に基づいた一人ひとりを大切に教育・保育の充実―それぞれにできる配慮を深めるために―」です。

冒頭、大学の河津巖教授による講演「障がいのある学生への修学支援を試みの中で感じた普遍的価値としての『感恩奉仕』」が行われました。河津教授は障がい学生を事例に、大学としての取組みを紹介し、その基礎に学院の建学の精神『感恩奉仕』が脈々と流れ、教職員と学生の強い心理的エネルギーとなっていると述べられました。その後、全教職員が10班のグループに分かれて、班別討議が行われ、熱心な議論が続きました。



河津巖教授による講演

ルーテル・アート・エキシビションを開催

7月29日から8月3日の6日間、上通りのアートスペース太宝堂で、ルーテル学院高校芸術コース（美術専攻）卒業生による美術作品展「第5回ルーテル・アート・エキシビション」が開催されました。

この展覧会は、本校の芸術コースを支援する会「ルーテル・アート・アカデミー」の企画により、東京藝術大学や愛知県立芸術大学、武蔵野美術大学など難関美術系大学を卒業、または在籍中のメンバーを中心に選ばれた12名の出品者による美術作品展です。

今回は、油絵、版画、立体など、具象、抽象問わず、自分の表現スタイルで制作した作品89点が展示されました。来場者も400名近くの盛況ぶりで、多くの方に芸術コース卒業生の活躍を披露することができました。

この美術展にご支援、ご協力頂いた多くの関係者のみなさまに感謝申し上げます。

※次回は2017年の夏、第6回目を開催予定です。



ハイレベルな作品が展示されました

絶好の秋晴れのもと、 ホームカミングデー＆ フィリア祭、盛大に

11月3日の文化の日、ルーテル・九州女学院同窓会のいばら会主催によるホームカミングデーおよび、九州ルーテル学院大学学生自治会主催による学園祭「フィリア祭」が同時に開催され、約500名の参加者で大いににぎわいました。

ホームカミングデーは、「坂道を上げれば、あの日の私に帰れる！」がテーマです。プログラムは開会礼拝に始まり、ミニコンサート、食バザー、懐かしい制服試着会、福引交換等が行われ、あちらこちらで思い出話に花が咲きました。



なつかしい写真も展示されました



にぎわうバザー



着ぐるみでPRする大学生



清重尚弘院長による開会礼拝

また、フィリア祭では「Itava」輝きを放つ、その瞬間」と題し、来場いただいた皆様が、物語の主人公のように輝くようなファンタジー溢れる企画で行われました。

今回のホームカミングデーとフィリア祭も、旧交を温める場、そして新しい出会いの場として、同窓生、在校生や関係者の皆さまに多くご来場いただき、学院全体が活気に満ちた一日となりました。

90周年ニラム

ルーテルと私

ルーテル学院高等学校第56回卒業生

横山 弘毅



私は2001年に本学院の共学化の年に入学しました。

まだ共学化したてで生徒も教職員の方々も戸惑いの中での高校生活でしたが、ルーテルの教職員の方々は、私たち男子生徒のことを理解し、しっかり受け止めてくれました。また試行錯誤の中で先生と職員が話し合い、ベストな選択で私たち生徒を導いてくれたのだと今では本当に感謝しています。

一期生が卒業して今年で12年目を迎えました。今ではその当時の生徒たちも30歳になり、県内外で活躍しています。私も県内の出版社で仕事を始め今年で7年目になりました。しかし今でも仕事をしながら高校時代の経験が本場に役立っています。ルーテル学院が掲げる「感恩奉仕」の精神、これは社会に出ても絶対必要な要素だと日々感じながら仕事に励んでいます。

今こうやって無事社会の一員として仕事に携わることができているのは、当時ルーテルの教職員の方々が共学化の際、苦悩しながらもしっかりと受け入れてくれた結果だと思っています。私たちは、この事に感謝し、今後も母校を愛し、今から母校を卒業し社会で活躍していく後輩たちをしつかりとサポートできる同窓生として、今後も日々精進していきます。

子育て講演会を開催

認定こども園ルーテル学院幼稚園

マリア会（保護者会）会長 大庭 早苗

マリア会では、

今年度は保護者向けの講演会を3回実施しました。一回目は「こどもと

性の話をしよう」講師 怒留湯美季氏

（助産師）、2回目は「こどもの病気

について語ろう会」講師 小松なぎさ氏

（熊本赤十字病院小児科医師）、3回目は「憲法と絵本のお話し会」講師 徳

永達哉氏（熊本大学准教授）でした。講演会は毎回盛況でとても好評です。

この講演会は全て保護者のつながりから生まれたものです。講師の中には

卒園生の方もいらっしゃいます。ルーテル学院幼稚園には、子育てに関して

の関心が強く幼稚園のみならず多方面で活躍している保護者が多くいます。

保護者自らの繋がりを最大限に生かし、講演会を企画し実施しています。

子どもを取り巻く環境は年々厳しいものになっています。そのような中、

子ども達が心身共に健康でその子の個性を生かした成長が出来るためにも、

今後も積極的に保護者主体の講演会を実施し、保護者同士が有益な情報を共有することで、わが子のみならず周り

の子どもの成長も見守っていかれたらと思っています。



とてもためになった！

「夢ナビライブ」への参加

10月17日、株式会社フロンティアが主催する「夢ナビライブ」が、福岡マリンメッセで開催され、ルーテル学院高等学校2年生の参加希望者339名、引率教員11名が参加しました。

「夢ナビライブ」とは「大学研究と学問発見のための国公立大合同進学ガイダンス」です。進学イベントとしてはかなり大きなもので、九州各県から多くの高校生が参加しました。

内容として「学問の講義ライブ」「大学個別説明ブース」「保護者向けの講演会」などのプログラムが準備されており、本校では進路指導に関する取り組みの環でこのイベントへ参加しました。

この行事をきっかけに大学受験に対する意識が早期に向上し、自分の将来像が明確になることを期待します。

参加した生徒の感想

高校2年10組 吉原 ひなの



とてもためになった。これが私の率直な感想です。まず、同じ学部学科名でも大学によつてそれぞれ特色が違うことがよく分かりました。また今まで知らなかった分野の講義も気軽に受けることができ、進路選択の幅を広げることができました。同年代の子がたくさん集まる「夢ナビライブ」で自分はこの中で戦わなければならないのかと、受験に対して気が引き締まりました。

高校2年10組 柴田 雛乃



まずはじめに、人の多さに驚きました。と同時に同世代の皆も同じ様に戦っている現実を実感し、「負けたくない」という強い思いを得ることができました。また実際に大学の講義を受けることができ、自分の将来の方向性を考える良いきっかけになりました。

就職・進学のための活力集会「ペプ・ラリー」開催

大学では、10月24日、就職・進路に向けた恒例の「ペプ・ラリー」（就職・進学のための活動集会）がチャペルで開催され、3年生と約50名の保護者が参加されました。全体講演と分科会が行われ、分科会では4年生の内定者がアドバイザーとなり、3年生とのフリーディスカッションが行われました。

就職活動を迎える3年生がこのペプ・ラリーをきっかけに、目標への意識を高め、目標をより明確化したイベントになりました。

大学のキャリア教育、言い換えれば、就職・進路支援の基本方針は、①人間力、社会人としての基礎力を身につけて、自立した行動ができるように支援すること、②就業力を育成するために、教職員が一体となって組織的支援を行うことです。

具体的には、人間力・

社会人基礎力を身につけるために、正課授業として「社会人基礎力」「キャリアデザイン」を開講するとともに、さまざまな

正課外講座やインターンシップ（職場体験学習）を連動させて、就職実践力を目指しています。

このような取り組みの結果、九州ルーテル学院大学は例年、全国的にも

トップレベルの就職決定率を達成しています。



全体講演

がんばる中学生

平成 27 年度 全国中学校体育大会 第 46 回全国中学校サッカー大会 大健闘の第 3 位に輝きました



夏の中体連で全国 3 位になることができました。思い返せばきついことやつらいこと楽しいこともありました。14 名で入部したときの体は小さかったけど全国を目標に練習しました。



中学 3 年 烏川 拓人

全国に行きたいと強く思ったのは 2 年生の中体連が終わった瞬間です。ルーテル学院中学は県大会一回戦で負けてしまいました。その悔しさを胸に新チームを迎え「Go to 北海道」を目標に頑張りました。そして今年の中体連で 8 年ぶりの全国大会出場を果たしました。全国大会では、選手、保護者、指導者が一つとなり心がつながりました。

いつも応援してくれた保護者の方、親のように厳しく指導して下さった指導者や先生方、ここまで一緒に戦ってきた部員の皆、ルーテル学院を応援してくれた方々がいたからこそ全国 3 位になることができました。今年の夏はとても良い経験になりました。応援ありがとうございました。本当に感謝しています。

全国 3 位になれたのは、私たちが応援して下さった方々への感謝の気持ちがこのチームよりも強かったことだと思います。熊本市内大会から全国大会まで決して楽な試合はなく、常にルーテル学院としての責任を果たすために緊張感を持って戦わなければなりません。でも、その一つひとつの試合を勝ち、全国 3 位まで進むことが出来たのは保護者やコーチ、監督、選手との一体感が途切れることなく最後まで続いてきたからだと思います。



中学 3 年 野口 慶悟

時に厳しく練習をし、飲み物や食べ物細かく制限して毎日自分たちの練習が合ったからこそ今の自分があり、今の結果があると思います。しかし、まだ上には上がいるし、「中学」という区切りにしか過ぎないので、この結果に満足することなく「高校」という新しいステージでも、日々の練習から上を目指して頑張りたいと思います。ご声援ありがとうございました。

私は、ルーテル学院中学サッカー部に入学して 1 年生のときからメンバーに選ばれて試合に出ていました。中体連ではプレッシャーの中で勝つことがとても難しく、全国大会に出場できたことは夢のようでした。



中学 3 年 竹宮 彪真

新チームがスタートした直後はチームがうまくまとまらず、みんながイライラした時もありましたが、誰一人として部活を辞めるという者はなく、お互いに励ましあって頑張ってきました。県大会から全国大会まで、なかなか先制点がとれず苦しい時間が過ぎていきましたが、試合終了まで我慢を重ねて少ないチャンス点を点につないで勝ち進んでいました。

中体連大会を通じて、チーム全体が進化していくのを感じました。是非後輩たちにも全国で活躍してほしいと思います。ご声援ありがとうございました。



日本一のプロ野球球団 ソフトバンクホークスへ

10月22日に行われた「プロ野球ドラフト会議」において、ルーテル学院高校3年硬式野球部、中村 農投手がソフトバンクホークスから、育成枠4巡目で指名を受けました。本校野球部創立14年目で、初のドラフト指名です。

中村投手は「ここまで支えてくれた多くの皆さんに感謝している。早く支配下登録をめざし、ルーテル学院の誇りとなれるよう頑張りたい」と決意を述べました。夢のプロ野球の世界へ一歩進んだ中村投手に、ここからエールを贈ります。



工藤公康監督のサインボールを手に、ソフトバンクの福山龍太郎スカウト（左）と握手をする中村農投手

わくわくさせるイベント盛り沢山 〜こどもフェスティバル〜

大学の人文学科こども専攻は10月31日、「2015こどもフェスティバル」を本学チャペルで開催しました。2010年から始まったこのイベントも今年で6年目。近隣の幼稚園児・保育園児、保護者、教育関係者など約350人が参加しました。

学生たちは手作りの衣装とプレゼントを準備し、オペレッタやアンパンマン体操を披露しました。

このこどもフェスティバルは、企画から準備、運営まで学生が主体となっており進めています。

こども専攻主任の永野典詞教授は「こどもフェスティバルは、オペレッタの発表の場というだけでなく、チーム（組織）としての個人の役割や良好な人間関係の構築について学びます。」

そして学生はさまざまな葛藤の中で、他者を理解し、協働する楽しさや難しさを体験します」と語っています。



こどもとアンパンマン体操を踊る学生

聖書の言葉

『聖書にある力』

9月に、大学のサマーキャンプを天草で行い、隠れキリシタについて深く学びました。禁教の長い歴史を経て、隠れキリシタンの多数は後で教会に戻らず、キリスト教を意識もせず、独特の宗教になってしまったようです。言い換えれば、日本の禁教を通して、当時のキリスト教はほとんど消滅したのです。

一方、世界の歴史でそれと似たようなローマ帝国によるキリスト教への禁教がありました。それは日本より長く、厳しいものでしたが、結局政府はキリスト教に全面的に屈服してしまっただけです。その原因はなぜでしょう。究極的に考えれば、指導者と聖書にあると思います。日本の場合は、両方とも欠いていました。ですから長い間に周りの影響を受け、別の信仰の形になってしまったのです。

一方ローマの場合はちょうどそれと正反対でした。指導者は絶えずいましたし、パウロが書いた手紙がずっと信徒たちを支えたからです。そして、ローマのキリスト教は迫害を激しく受けなければならない程です。

大学チャプレン
黄 大衛
ホワン
ダーウエイ

さて、そのパウロの手紙の一つである新約聖書のテモテの信徒への手紙二3章16節にはこういう言葉があります。「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。」この言葉は、聖書が神様の言葉であることを示し、そこにある神様の導きと働きをも明白にしているのです。

2つの事例から、聖書という御言葉の存在の大切さが示されています。本院も聖書の御言葉が語られ、神様の導きのものと、多くの卒業生に愛されていることは、素晴らしいことなのです。本院の90周年を迎える際に、ますます聖書に親しみ、神様に頼りましょう。



「歴史の扉」その時ルーテル学院は

～夢の楽園から人生へ～

九州女学院7回生 大橋 寿美子



九州女学院。それは精神面でも物質面でも満ち足りた楽園でした。

中学部に入学したのは昭和24年のこと。敗戦から3年半たち、やっと飢餓からは脱け出しはじめていたものの、入学記念写真は継ぎはぎの服に下駄ばきという姿。でも、更に辛かったのは、大人も子どもも、心の支えを失っていたことでした。敗戦の時、私は小学校3年生でした。「敵が上陸してきたら、竹槍で戦え」と指導していた先生が、一転して「アメリカ人にはハローと言って手を振りなさい。」と教えるではありませんか。子どもながらも、完全に大人不信に陥ったものです。社会全体も混乱していました。すべての価値観がひっくりかえり、信じられる確かなものは何もありませんでした。

しかし、九州女学院は違いました。美しい音楽が流れる朝夕の礼拝、信念に満ちて毅然とした先生方、充実した授業。設備の充足も加えて、女学院は当時

まだ新鮮だった民主主義と自由平等の思想を、キリスト教文化で裏打ちして、もっとも純粹で理想的な形で表している学校でした。私たちはもう迷うことなく、与えられるすべてを吸収するのに夢中でした。

パッツ先生のハイヒールの足音がコツコツと近づくのに心をときめかせ、教室に生けられていたコスモスの花粉でくしゃみをされる様子に、これがアメリカ人のデリケートさ、と感嘆する素朴な子どもでした。宣教師の先生方だけではありません。教員も職員も皆、個性豊かで名物的なお人柄で、生徒の方も親しみをこめたニックネームを贈呈して楽しんでおりました。例えば「チムさん」とか…チムニは高く黒くて煙をはきますよね。」

ところが高校生になる頃から、すこし雰囲気が変わったようです。それが学校の方針だったのか、あるいは、戦後に大学を出られた若い先生方の自由な考え方のためか、また、単に

私たち生徒の遅まきの反抗期のせい、かわかりません。ともかく、新しい風が吹きました。有志の先生の呼びかけで、読書会、映画会、山歩きなどが計画され、誰でも参加自由でした。また、英語の課外授業のテキストがモームの『雨』だったこともありましたが、もともと、さすがにこれにはどこからか批判があつたらしく、中止になりましたが…。

でも、こうして私たちは学校外の世界の広さと多様さを知り、神と善悪、人間の本性などの疑問をかかえながら、自分で考え始めました。私たちは生意気で扱いにくい生徒になつていたかもしれません。学校をとおびだした人、教室から追い出された人、叱られた人など、問題児が何人もいましたから。でも、それは大人になるために必要な段階でした。

九州女学院は、まず、不安で頼りない子どもたちに確固とした土台を与え、次に、そこから踏み出す力を育ててくださった

のだと思います。卒業から60年たちましたが、今もって、女学院教育の延長線上にいる自分に気がきました。お世話になったお一人、お一人を偲びつつ、あらためて、心からの感謝を捧げます。ありがとうございました。



阿蘇にて、参加自由の山歩き（昭和28年）

2016年度の入試日程が決まりました

●九州ルーテル学院大学

入試区分	出願期間	試験日
一般Ⅰ期・帰国生及び私費外国人留学生・編入生	1月18日(月)～1月27日(水)	2月6日(土)
センター試験利用	2月 1日(月)～2月10日(水)	本学独自の試験は実施せず
一般Ⅱ期	2月19日(金)～2月26日(金)	3月5日(土)

●ルーテル学院高等学校

入試区分	出願期間	試験日
専願・奨学	1月14日(木)～1月20日(水)	1月26日(火)
一般	2月4日(木)～2月12日(金)	2月17日(水)

●ルーテル学院中学校

入試区分	出願期間	試験日
専願・奨学前期	12月 1日(火)～12月10日(木)	12月12日(土)
一般前期・奨学後期	12月16日(水)～ 1月14日(木)	1月16日(土)
一般後期	1月20日(水)～ 2月 4日(木)	2月 6日(土)

●認定こども園ルーテル学院幼稚園

願書受付中

詳しくはそれぞれのホームページをごらんください。

募金報告

2015年6月1日～
2015年11月10日まで
(五十音順)

(五十音順)

学院創立90周年記念事業計画にご賛同いただき、そのための募金にご協力くださいますと、心からお礼申し上げます。
感謝の意を込めて、ここにご芳名を掲載させていただきます。

今後も募金活動は続けて参りますので、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

2015年2月

募金委員長 林田 博文

企業業

あさはら整形外科様
キユウテックス様
熊本バレエ研究所様
熊本マタニティ様
佐藤商会様
西日本シティ銀行様
フジマック熊本営業所様

一般有事

植嶋 貴子様
清重 ナナ様

卒業生

秋山節子様
芦塚美子様
坂富洋子様

友住	津田	辻	谷口	田中	高見由貴美	高橋理恵	古場愛子	興侶順子	桑野史於	北野通子	加藤麻衣子	緒方玲弥子	大石悦子	内田昭代	牛島麗子	上杉梨子	井上省子	泉富治子
容子様	惠子様	里枝様	美樹様	辺由紀子様	田中律子様	高見由美様	愛子様	睦子様	史於様	通子様	麻衣子様	玲弥子様	悦子様	昭代様	麗子様	梨子様	省子様	淳子様

中島由里子様	野崎 道子様	福永加代子様	福村佳代子様	藤米田ヒロ子様	松本 沙織様	松本 千明様	松本留美子様	葦田由美子様	森 聖 朗様	森 雅代様	吉井 恭子様	九州女学院高校 20回生有志一同様	九州女学院高校 26回生還暦同窓会 参加者一同様	九州女学院中学 39回生有志一同様 のいばら云	親睦バスツアー 参加者一同様	結会事務局様	掲載を希望されない ご寄付者7名様	掲載確認中の ご寄付者1名様	保護者 保護者	秋山 涉様	荒牧 堅治様	安藤 裕子様	井芹 郁人様	大島 隆広様	岡本 稔様	岡本 勇人様	小川富士夫様	尾崎 俊介様	甲斐 高工様
--------	--------	--------	--------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	----------------------	--------------------------------	-------------------------------	-------------------	--------	----------------------	-------------------	------------	-------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------

衛藤	上原	植野	犬野	岩原	岩崎	井上	石田	石井	飯川	綾垣	飽田	学校関係者 (旧教職員含) 1名計14名	掲載を希望されない	渡辺	渡邊	渡辺	森永	村上	三井	松村	松岡	前田	鍋田	中村	中原	永谷	長島	谷口	竹矢	高宮	田上	住吉	莊林	茂田	佐藤	坂本	坂田	坂口	倉本	岸森	川部	柿原
繁様	栄作様	堀正子様	開様	昭久様	由二様	光行様	豊美様	昇様	幸真様	和好様	雅子様		隆一様	裕夫様	健明様	哲也様	千鶴様	民雄様	三正様	愉美様	秀則様	昭憲様	勇貴様	宏子様	忠正様	伸一様	賢一様	節子様	省吾様	節美様	尚子様	庸一様	博文様	昭憲様	勝男様	達哉様	まみ様	利彦様	一広様			

古原 藤原 藤川 福田 福田 福田 平江 百武 瀧田 濱崎 橋本 野口 根岡 西山 西山 西村 西川 永守 永野 豊田 朝長 所埜 鶴山 崔定 雀依 田仲 田中 園田 角本 島内 白樺 塩境 坂根 香智 山口 河津 川畑 清重 栗原 黒蔵 狩野 金津 緒方 江藤
四朗様 べに様 千穂様 靖様 茂様 惠美様 佳子様 美貴様 玉恵様 昭吾様 庸一様 尚様 知子様 貴子様 隆志様 一郎様 浩之様 典詞様 大凡様 基様 克郎様 泰行様 桑子様 洋介様 松吉様 浩様 直英様 静枝様 二名様 信義様 裕俊様 将一様 翔大様 博様 左代様 雅人様 良純様

ご協力者名簿の掲載についてのお知らせ

今回の掲載につきましては、掲載に同意を得られた方のみ載せております。よって、11月10日現在で同意未確認の方は掲載しておりません。

掲載の同意をいただける方々の学院報に掲載させていただきます。

なお、お気づきの点等ございましたら、下記の募金事務局までご連絡ください。

今後とも引き続き皆様のご厚情を賜りたくお願い申し上げます。

電話 096-3343-3111 学院総務部 募金事務局

前田	貞一様	牧	均様	眞崎	利範様	松尾	睦寛様	三城	充石様	水谷	大介様	水野	博子様	満嶋	優美子様	宮田	博司様	村中	司様	百家	裕幸様	山内	隆雄様	横井	由紀子様	吉田	謙様	米田	真理様	和田	成子様	渡邊	健太様	掲載を希望されない ご寄附者7名
----	-----	---	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	------	----	-----	----	----	----	-----	----	-----	----	------	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	---------------------

Luther
ルーテル学院報（時報）
No.9

発行 学校法人 九州ルーテル学院
発行日 2015年12月11日
編集 ルーテル学院報編集委員会
印刷 株新生社印刷 熊本支店

ご意見・ご感想は編集委員会まで

〒860-8520
熊本市中央区黒髪3-12-16
TEL.096-343-3111
shomu@klc.ac.jp